

今号の言葉

「今日涙して明日又笑おうぞ」



当寺の檀信徒でいらした、昭和を代表する国民的歌手美空ひばりさん（平成元年六月二十四日命日）慈唱院美空日和清大姉が色紙に書かれていたお言葉です。歌手として大成功を収められたひばりさんですが、常にこのようなお気持ちで日々努力を怠らなかつたからこそ、沢山の人々に希望や力、そして癒しの歌を届けられたのでしよう。
日蓮大聖人の「冬は必ず春となる」と言われたお言葉に通じるものを感じます。この石碑はひばりさん一周忌法要の供養にと「むらさき会」の方が奉納されたものです。

大広間机入れ替え



近年、お参りの皆様から「椅子ありますか？」とのお声を多く頂戴しております。お寺の広間という畳に座布団というのが昔からのイメージですが、それが故にお寺から足が遠のいてしまったのでは意味がありません。そこで、本年は当寺が宗教法人を取得して五十年の節目にも当たりますので、護持会様に協力頂き広間の机を入れ替え、テーブルと椅子に模様替えしました。これによってお盆やお彼岸法要の時も椅子の数が大幅に増えますので、座布団では座れない！という皆様もお参りしやすいようになります。護持会の皆様有り難うございました。大切に使用させていただきます。

唱導寺檀信徒会館の使用料について



令和より維持管理の為、使用料を頂戴することになりました。ご理解の程宜しくお願い致します。
ご拜儀での使用
・護持会員 ● 無料
・檀信徒（非護持会員） ● 三万円
精進落としての使用
（法事後のお食事） ● 一万円

唱導寺だより

Shoudouji News

第3号
2019.8月

日蓮宗 総本山
身延山久遠寺の菩提梯

三門から本堂へと続く二百八十七段の石段。登り切れば涅槃に達するという意味の梯は南無妙法蓮華經の七字になぞらえ七区間に分けられている。



当寺住職による
「海應コラム」
Vol.03

親 しんだ平成が幕を閉じ、令和の時代が始まりました。皆様はもう令和に慣れましたか？新天皇陛下御即位一般参賀には十四万人を超える人々が集い、関心の高さが伺えました。

古 来より天皇陛下は尊い存在であり、第二次世界大戦後の日本国憲法第一条では「天皇は日本国と日本国民統合の象徴」とありますが、やはり尊い存在に変わりはなく、国民の一つの心のよりどころになっています。私の観点ですが、平成時代に天皇・皇后陛下の存在感が増されたのは、東日本大震災で被災者の方々を見舞われるお姿であったのではないかと感じています。テレビを通してでも伝わる両陛下の真心とオーラに、やはり天皇陛下は尊いお方なのだ改めて気付かされました。

日 本は「自分は無宗教」だという人が多い国です。他国の人から見ると、何故信じるものがなくて生きていけるのだ？ 信仰の無い人生は考えられないと言われることが多々あります。今回の天皇陛下の御退位・御即位を見ていると、両陛下のお姿を見て涙する心境というのは、信仰とは違いますが、日本人の心のよりどころであり、その心のよりどころが生身の人間であり、お姿を見ることができ、お言葉を聞くことができるという世界でも貴重な国なのだと感じました。

天 地自然に感謝をし、ご先祖様に感謝をし、天皇陛下を尊ぶ。そんな姿が日本人の信仰の原点なのかもしれないと感じる令和の始まりでした。
（天皇陛下の存在に関しては、個々の見解があろうと思いますが、あくまで私見であしからず）



今号の一枚

横浜隼人高校ボランティア同好会の皆様のご協力を頂き、三年前から始めた、夏休み「宿題てらこや」の様子です。お寺に沢山の子どもさん達が集ってくれてとても嬉しい行事です。

唱導寺だより 第3号

発行 ◆ 令和元年8月18日
発行者 ◆ 日蓮宗延宝山 唱導寺
住職 菅野 海應
神奈川県横浜市港南区日野中央1の6の34
電話: 045 (842) 2955
FAX: 045 (841) 9600

ホームページ: www.shoudouji.org/

日蓮宗
延宝山



唱導寺

うちのお寺は何宗だっけ？

お寺には色々な方が訪れます。勿論、唱導寺の檀信徒以外の方もいらつしやいます。話しの中で、「ところでお宅の宗派は何ですか?」と尋ねると、すぐに「〇〇宗です」と答えられる方は半分以下のようです。多くの方が「ええと南無阿弥陀仏だったような...」「南無妙法蓮華経だったような...」「うちは無宗派です」等々。

さて、この唱導寺だよりをご覧になっている皆様は唱導寺が何宗か知っていますよね?そうです「日蓮宗」です。では、日蓮宗徒としてこれだけは知っておいてもらいたい事をお伝えしましょう。

御本尊

久遠実成本師釈迦牟尼仏

法華経の十六章で説かれている、永遠の命を持たれた仏様。久遠本仏や寿命本仏とも言います。実際の形式は十界大曼荼羅・宝塔・仏像等があります。

御題目

南無妙法蓮華経

私達とご本仏を繋ぎ、導いてくれる七文字です。

經典

妙法蓮華経

お釈迦様が晩年の八か年をかけられ全てのもの成仏を説かれた教え。

宗祖

日蓮大聖人

貞応元年(一二二二)二月十六日、

弘安五年(一二八二)十月十三日



開宗

建長五年(一二五三)四月二十八日

千葉県の清澄山の山頂にて太平洋から昇る朝日に向かいお題目を十遍唱えられたことを以て開宗。

総本山

身延山久遠寺

山梨県。日蓮大聖人の遺言によりお墓が建てられました。



身延山本堂御本尊



身延山本堂と祖師堂

住職の日常



皆さん、今号もご覧いただきありがとうございます。住職です。さて、あまり興味がないかもしれませんが、今号では住職の日常(勿論お寺によって違うので、唱導寺住職限定ですが...)をご紹介します。基本的に決まっている日常は左表のようになります。



本堂でのお勤め

- 05:40 ●起床**
(11月1日~2月10日は05:20起床。その後水行) 門や雨戸を開けて、洗顔、青汁を飲むのが日課
- 06:15 ●朝の勤行**
本堂で約1時間の勤行—宗祖ご真筆御本尊前—守護神堂—三宝荒神様(台所の神様)—仏壇—久遠廟(永代供養墓)—お地藏様—普照殿(納骨堂) 8時過ぎ終了
- 08:10 ●朝食**
知り合いに「朝食は納豆とヨーグルトがいい!」と言われてから、毎朝納豆ご飯・味噌汁・ヨーグルト(アロエヨーグルトが好き)を食べています。
- 08:45 ●掃除**
- 10:00 ●法務**
その日によって全く違いますが、ご法事・ご葬儀・ご祈祷・ご相談・月参り等々…。その合間に、塔婆書や事務仕事・原稿作りなどを行います。
- 12:00 ●昼食**
食べたり食べなかったりします。食事をした後はどうもお経があげづらいので、法務が立て込んでいる時は、食べない事が多いです。
- 17:00 ●普照殿閉堂**
ここからはかなりアバウトです。出来る限り夕方にお題目修行。
- 19:30 ●夕食**
この日の法務が終わってれば、アサヒスーパードライを一本と芋焼酎一杯。
- 23:00 ●就寝**



寒百日に行う水行

十一月一日から二月十日の寒百日は日蓮宗大荒行堂が行われている期間なので、その期間は本堂前の水行場で寒水で身を浄めてから、朝の勤行を行います。かれこれ三十年間水をかぶってますね。実は寒いのは水をかぶっている時よりも、その後の勤行でどんどん冷えてくる時なのです。大きな声では言えませんが、多分身体には良くないような気がします…。

身延山三門



なぜ日蓮大聖人はお題目の宗派を立ち上げられたのか? 話せば長くなりですが、日蓮大聖人の御在世である鎌倉時代は、沢山の寺院が隆盛を誇っていたにも関わらず、大地震や飢饉などで大衆が苦しんでいた。そんな中で日蓮大聖人は「仏教は隆盛しているのに、何故飢饉疫病や大地震が起き人々は苦しまなくてはいけないのか?」という疑問を持たれ、お釈迦様の全ての教え(一切経)を学ばれた。そしてついに、お釈迦滅後二千年を経過した末法には「法華経」しかも「南無妙法蓮華経」のお題目を弘めなければ救済の道は開かれぬとの確信を持たれたのです。

その後は、お題目を弘め皆を救い導く為に、艱難辛苦を乗り越えられてのご生涯を送られました。そのお題目弘通のご生涯の中で日蓮大聖人はお釈迦様より末法に法華経流布を委嘱された「上行菩薩」の御自覚をされます。



宗祖ご廟所

普照殿でのお勤め



今私の悩みは運動不足。運動は嫌いではないのですが、中々定期的にできない。ウォーキングは心掛けていますが、毎日できない…。どうにかしなくてはと思っています。



塔婆書風景



掃除風景

お坊さんというと皆さんのイメージとしては、ゆったりと過ごしているイメージが強いのかなと思います。ゆったりと時間に追われずにお釈迦様の教えと向き合いながら過ごせることが坊さんとしての理想形であろうとは思いますが、唱導寺は町寺で日々時間に追われながら過ごしている感じかもしれません。特に年末十二月の声を聞いてから三月のお彼岸が終わるまでは、毎年のことですが月に一日休めるかどうかといった状態です。昔から「山の坊主より里の坊主」という言葉があります。山に籠って自分の世界に入り覚りを開くことよりも、世俗の中で道を求めることのほうが、難しく尊いという言葉です。私はどちらかというと世俗に染まりまくってますが…残念。

私が現在、唱導寺以外で定期的に行っていることは某刑務所での教誨活動です。各宗派で「教誨師」と呼ばれる坊さんや神職さんがいます。基本的に月に一度刑務所に出向き、受刑者の方々と共に読経をしたり、法話をしたり、悩みを聞いたりするのですが、私も日蓮宗教誨師として微力ですが活動をさせていただいております。

